

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に関する平成19年度
新規小規模海外研究拠点の採択について

岡山大学では、平成18年度に文部科学省が公募していた「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に関する「新規小規模海外研究拠点形成を目指した予備調査研究提案」に採択され、海外研究拠点における研究の強化と研究ネットワークの拡充を目的として、インド国に海外研究拠点の設置を目指し、予備調査研究を実施しました。

このたび、その実施結果を踏まえ、文部科学省より、平成19年度からの小規模海外研究拠点として、インド国に設置をすることが認められました。

1. 「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」概要

文部科学省は「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」を平成17年度に開始しました。これは、国外に我が国の研究拠点を設置して感染症研究を行い、我が国の感染症対策に資する知見の集積を図り、併せて人材を育成しようとするものです。

現在、タイ、ベトナム、中国の3カ国に研究拠点を設置して研究を行っていますが、平成19年度には、インド、ザンビア、インドネシアに研究拠点を設置し、計6カ国の海外研究拠点において感染症の研究を推進します。

2. 研究拠点名称

岡山大学インド感染症共同研究センター

3. インド国での共同研究機関

国立コレラ及び腸管感染症研究所（インド国・西ベンガル州コルカタ市）

4. 設置予定時期

平成19年秋頃

以 上

[本件責任者]

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 岡本敬の介

086-251-7945

概説

新興・再興感染症研究拠点形成プログラム 平成18年度公募について

独立行政法人理化学研究所
感染症研究ネットワーク支援センター 副センター長
井上直樹

平成17年度から「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」がスタートしましたが、平成18年度ではこれを引き継ぎ、海外研究拠点における研究の強化と研究ネットワークの拡充を目指して、「海外研究拠点を活用した新規研究課題」と「新規小規模海外研究拠点形成を目指した予備調査研究提案」の2つの公募を実施しました。

1. 海外研究拠点を活用した新規研究課題

「海外研究拠点を活用した新規研究課題」は、既存の海外研究拠点のうち、タイの国立予防衛生研究所、ベトナムの国立衛生疫学研究所およびバックマイ病院、中国の中国科学院生物物理研究所および同微生物研究所を対象として、平成17年度では欠落していた研究課題や新たな視点・研究手法を新規に組み込むことにより、海外における研究能力の向上と人材の育成を図ることを目的として、公募しました。

なお、研究実施期間は、原則として平成18年度から平成21年度までの4年間です。

2. 新規小規模海外研究拠点形成を目指した予備調査研究提案

「新規小規模海外研究拠点形成を目指した予備調査研究提案」は、既存の研究ネットワークを拡充することを目的として、新興・再興感染症の発生国あるいは発生が想定される国に、現地研究機関との協力のもと、既設の研究施設を活用した新規かつ小規模な海外研究拠点を設置し、将来わが国の研究者が恒常的に現地で研究を行うことがで

きる体制を整備することが可能であるかどうかを探るための予備調査研究提案を公募しました。

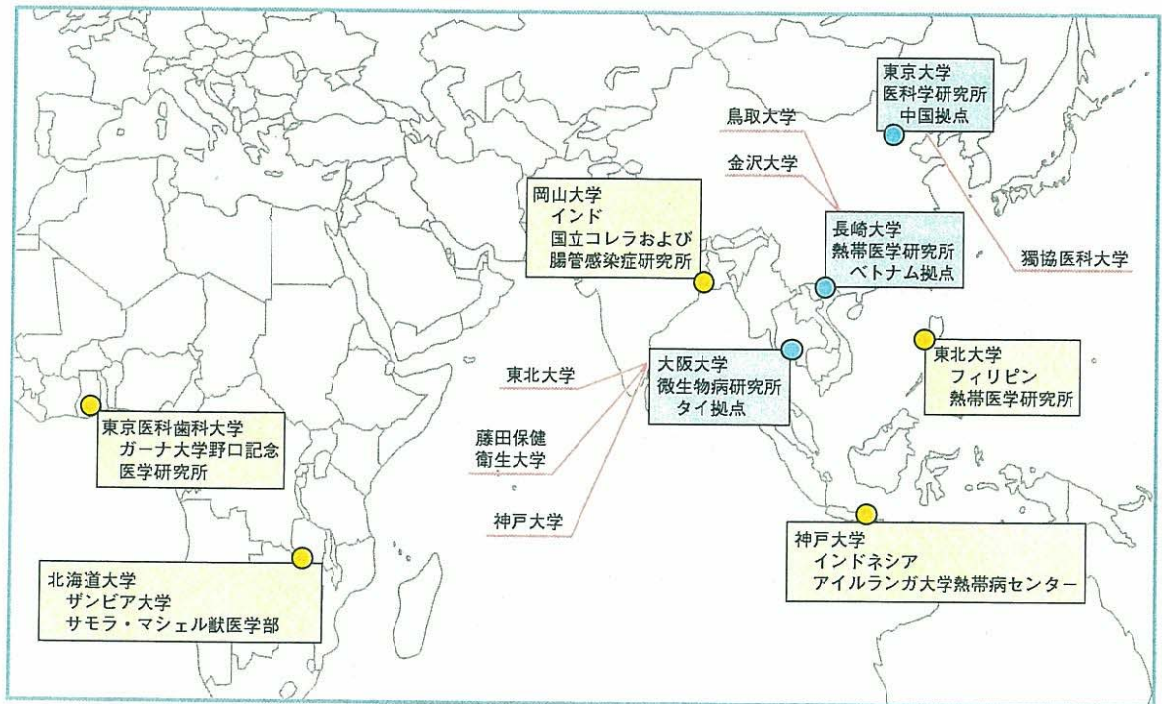
調査研究の内容は、

- ①海外研究拠点設置の必要性に関する調査
- ②海外研究拠点設置の実現性に関する調査
- ③海外研究拠点設置に必要な施設等情報の調査
- ④海外研究拠点設置に必要な諸制度の調査です。

平成18年度の単年度事業です。

公募概要

公募は、平成18年7月19日(水)に開始、平成18年8月17日(木)に締め切られ、感染症研究推進委員会(注1)に設置された審査ワーキンググループ(注2)による書類審査およびヒアリング審査を経ました。次いで、第2回感染症研究推進委員会(平成18年9月14日)において、審査ワーキンググループから報告された採択候補について審議を行い、「海外研究拠点を活用した新規研究課題」については金沢大学、鳥取大学、獨協医科大学、藤田保健衛生大学、東北大学、神戸大学の6件、「新規小規模海外研究拠点形成を目指した予備調査研究提案」については岡山大学-インド、東京医科歯科大学-ガーナ、神戸大学-インドネシア、北海道大学-ザンビア、東北大学-フィリピンの5件の採択課題を決定しました。



新興・再興感染症研究拠点形成プログラム 平成 18 年度公募

● 「海外研究拠点を活用した新規研究課題」対象地 (既存拠点)

● 「新規小規模海外研究拠点形成を目指した予備調査研究提案」対象地